

# 実用的大阪弁講座

49期生

## I テーマ設定の理由

私は、「大阪弁」というものに前から興味がありました。最近では、テレビを見たりすると、ドラマで大阪弁が使われていたりして、大阪弁を知る人が日本でも増えてきています。しかし、まだ大阪弁に偏見を持っている人がいます。そこで私は、自分が普段使っている言葉を改めて見つめ直してみようと思いました。

## II 研究方法

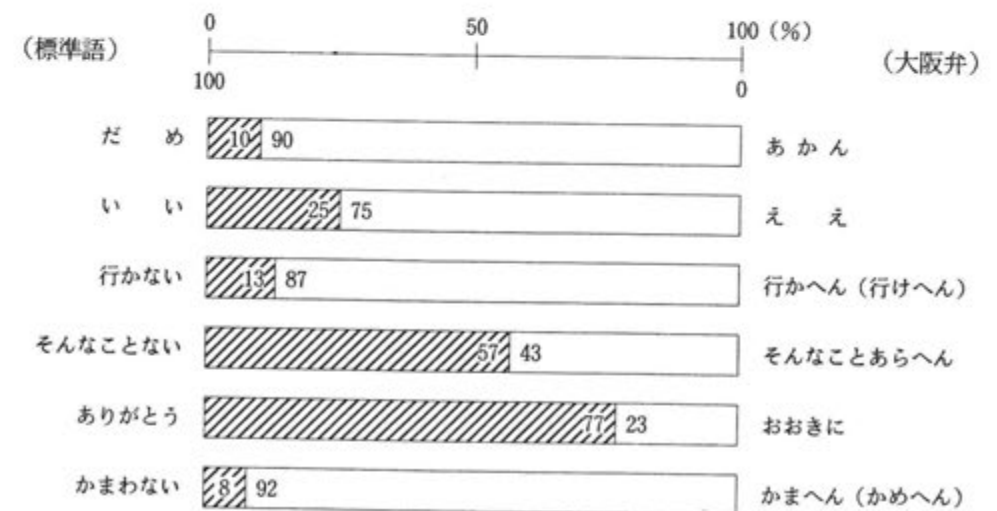
- (1) 文献調査 大阪弁の今までのイメージはどんなものなのかを調べる。また、大阪弁のイントネーションなどについても本で調べる。
- (2) 実例をあげて説明 大阪弁は知識だけでは話せないので、大阪弁の使えない人でもすぐ使えるような、簡単なものを日常会話の中からとり出してみる。
- (3) 現代文学を大阪弁訳 共通語で書かれている現代文学を、自分で大阪弁に訳してみ、共通語のものとのイメージの違いを調べる。

## III 研究内容

### 1. 大阪弁の使用頻度

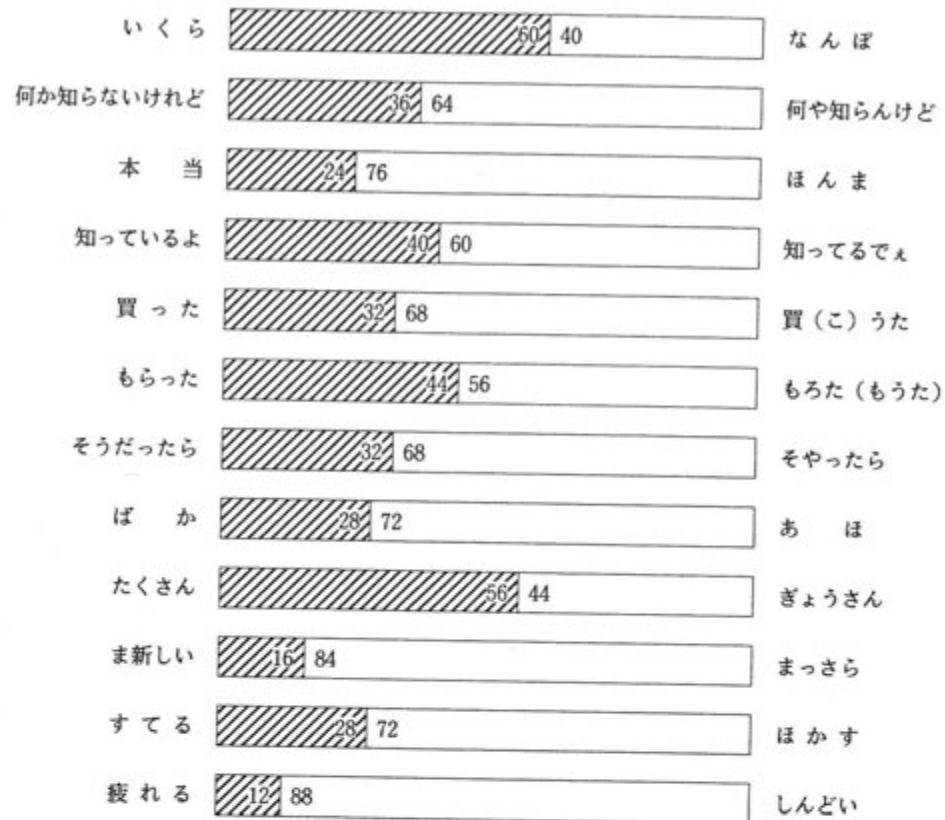
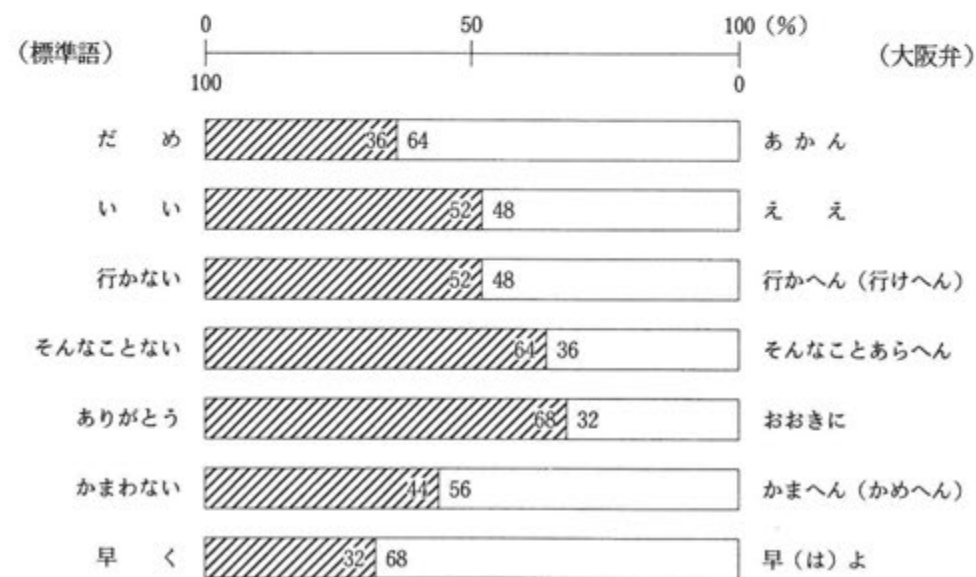
- (1) 本に載っていたアンケート（標準語と大阪弁のどちらをよく使うか）の結果

▼表1 「大阪生まれ、大阪育ちの人」あるいは「大阪生まれではないが、大阪育ちの人」のアンケート結果（20～30代の50人対象）





▼表2 「生まれ育ちは大阪ではないが、今仕事か勉強で大阪にいる人（5年以上10年以下）」のアンケート結果（30～40代の25人が対象）



2つの表を見ると、やはり表2の方が標準語の使用頻度が高い。しかし、表2の方でも大阪弁の使用頻度が50%を越えているものが多い。また、年代によつての差だが、これはあまり差は見られない。このことから分かるように、大阪の若者は「大阪ことば」に強い愛着を持っているのではないだろうか。

(2) 「おおきに」と「ありがとう」

大阪の若者は「おおきに」より「ありがとう」の方をよく使う。しかし、この「ありがとう」は、標準語の「ありがとう」とはアクセントが異なる。標準語では、「ありがとう」の「り」の音にアクセントがつくが、大阪では、「ありがとう」の「と」の音にアクセントがつく。

「おおきに」という言葉は、少し商売用語の色が強く、年配の方々はまだ使っている様だが、若者では使用頻度が低い。

また、「たくさん」という意味の「ぎょうさん」は若者での使用頻度が低いようである。しかし、その他の言葉については、老、中、若の三層の間にさほど大きな差はない。

(3) 大阪弁の「死語」

皆さんは、「しんきくさい」「えげつない」「こける」「せいてせかん」「八丁三所」を使うだろうか。

「こける」や「しんきくさい」などは、わりとどの年代の人にも知られているし、使う人もけっこういる。しかし、「せいてせかん」や「八丁三所」は、知っている人

も少ないし（特に若者層）、使っている人となるともっと少なくなる。この2つは、中・老年代では今も使う人がいるが、時代が経つにつれて使う人も聞くことも少なくなっていき、やがて死語になっていく可能性がある。

## 2. 大阪ことばに見られる「気配り」

大阪弁の特徴の一つにして「気配り」表現が豊かであるという点が上げられる。ここでは、そのいくつかを紹介する。

(1) 大阪弁は全体から言うと、YESとNOとをはっきりさせなかったり、曖昧にぼかし、単刀直入に表現することを避けたりして、相手を傷つけないでおこうとする柔らかさがある。その一方、言葉の中に多くの意味が含まれて、後でゆっくりじんわりとこたえてくるというところがある。肝心な所をぼかしながら事の本質をついている。本当に柔らかい中にすっ…とシシが通っているような感じといえる。このように、大阪弁の持つ柔らかさは、関東の地域ことば、あるいは標準語では言い換えられないものである。大阪弁は商人気質の色が強い庶民的な言葉だけに、相手に細かく対応し、相手の機嫌を損ねないように、柔らかく優しく表現するといった対人関係の表現が特に豊かである。

(2) 否定の意味の「あらへん」は、「ない」と言うより、否定を緩和した、よりゆとりのある表現である。「よくない」ことを大阪ではよく「ええことない」「ええことあれへん」などの形を取ることが多い。

また、「まずい」などのように、悪い方から言うよりも、「おいしいない」のように、良いことを「否定」する形で言うことが多い。

## 3. 大阪弁のイメージ

東京で大阪弁のイメージについて聞くと、大阪弁に対してマイナスのイメージを持っている人が33人中6人（18.2%）、マイナスとプラスのイメージがそれぞれ半分ずつという人が33人中6人（18.2%）、プラスのイメージを持っている人はなんと33人中21人（63.6%）だった。このことから、東京の人にも、プラスのイメージをもつ人が多いことがわかる。

「プラスのイメージ」と答えた人は、「やわらかくてよい」「なじみやすい」「庶民的」「歯切れがよい」などという人が多い。「マイナスのイメージ」と答えた人は、「本音がよくわからない」「あまりきれいとは思わない」などと答えた人がいた。また、「プラスとマイナスが半分のイメージ」と答えた人は、「柔らかさなどは感じるが、言葉の重みに欠ける気がする」「男性だと少し不快」という人が多い。

私は今まで、他の地方では大阪弁に対してマイナスのイメージを持っている人の方が多いのではないかと、思っていたが、違ったようだ。また、現在大阪に住んでいて出身が近畿地方以外の人に同じような質問を試みたのだが、この人達も「プラスのイメージ」と答える人がほとんどだった。このことから考えると、住んでる所や出身地というのはあまりプラスとマイナスに関係しないことが分かる。もちろん、大阪生まれ大阪育ちの人は、大阪弁が好きで、私ももちろん、今まで嫌いという人を聞いた事がない。

## 4. 大阪弁会話講座

大阪弁は知識を詰めこむだけでは話せない。大阪弁を上達させるには、大声で話し、大阪弁の話せる人と会話する事が大切だ。ここでは、「アホ」という言葉の使い方を伝授する。

### ・アホ

この言葉は他の地方でも使われているが、「バカ」とはまた違う意味を持つことがある。

(例) A「この前、えんぴつ100本買<sup>う</sup>てん。」

B「また、そんなにアホほど買<sup>う</sup>て。何に使うん？」

このような場合、「アホ」は「バカ」とは全然違う意味になる。この例の場合、「アホ」は「アホほど」で1つの意味を持ち、とてつもない数量のことをいう。

又、他にも、「バカタレ」のことを「あほんだら」、「バカな事をするな」というときの「バカな事」を「アホな事」と言うなど、「あほ」はすっかり大阪人の代名詞になっている。

「ばか」と言ったのに比べ、大阪では「あほ」と言っても、相手の機嫌を損ねないようである。東京の人などは「バカ」には寛容だが、「アホ」には敏感に反応する。真顔で「アホ」と言うと、不愉快に感じ、本当にバカにされている印象を受けようだ。

「ばか」には、余韻がなく、「あほ」の語感の持つ柔らかさ、かわいさ、愛すべき部分が少ないようである。大阪では「ばか」というのは罵言で失礼なことになるし、最大の侮辱とも受けとめられる。本当に「ばか」にされているような感じで、「あほ」より冷酷な表現という感じもする。

## 5. 大阪ことばの動的変遷

大阪ことばも、ほかの言葉と同様にだんだん変わりつつある。

- (1) 一部分は共通語になった、あるいは共通語になりつつあるものがある。これは、「方言の共通語化現象」と呼ばれている。
- (2) 新しい大阪ことばを「新方言現象」と呼ぶが、これは文法変化によるものや、若年層で流行したものなどがある。
- (3) 一部分は内側で削減していったり、使用範囲が老年層に限られてしまったりする。

## IV 結論

地域ことばの中にこそ、その土地の文化がしっかりと息づいている。全国の各地域ことばを含めた全体が日本語の姿なのであって、地域ことばはその地域の鏡であり、文化遺産でもある。大阪弁のもつ柔らかさは、なかなか関東の地域ことば、あるいは標準語では言い換えられないところが多い。

大阪では、大阪弁を覚えれば、相手とのコミュニケーションがより一層うまく出来るようになる。また、大阪弁の方が気安くものが言えると思う人が多い。というのも、相手と自分との距離をぐんと縮めることができるからである。

大阪弁の世界は、その内部で、大阪人の誰もが日常生活で使い、聞き、生きているの

もあれば、消えていけだろとう思われるものもあり、それは一面的にはとらえきれない多様な面を持ち、絶えず動いている。

大阪は気配りがよく利いている所。大阪ことばのありようを知ることによって大阪文化の特徴を再認識できるのではないだろうか。

## V 総括

毎日毎日、大阪弁を使いまくっている私。でも、この研究で、知らない事がいっぱい出てきて、本当に情けない思いをしました。今まで、「大阪人」の目からしか、大阪弁や大阪を見たことがなかったので、他の地方の人や、留学生の目から「大阪弁」はどういう風に見られているのかもよく分かりました（文献調査からだったけど）。見当していた事と同じだった事、見当していた事と全然違っていたことなど、いろいろありましたが、それによって、大阪弁の新しい一面を見たような気がして、とても面白かったです。

この研究で、大阪弁、そして大阪を新しく見直すことができました。そして、この研究で、大阪弁を心から好きと思えるようになりました。そういう人が増えていってくれることを祈ります。

## VI 参考文献

- ・「大阪ことばの特徴 Characteristics of Osaka Dialect」  
彭 飛（例文英訳＝ダニエル・ロング）P12-35
- ・せんぎんこだわり情報誌「Se・Lect」 泉州銀行
- ・「大阪弁のある風景」 三田純市 東方出版
- ・「大阪ことば辞典」 堀井令井知 東京堂出版
- ・「楽しく身につく関西ことば」 佐藤 孝 新星出版社
- ・「告別」 赤川次郎 角川文庫